

2. 各研究科等の教員養成に対する理念

(1) 文学研究科国文学専攻（中専免（国語）・高専免（国語））

国文学専攻では、本学の教員養成の理念を基礎として、専修免許状教員養成を長年にわたって行ってきました。京都を中心とする近畿の府県のみならず、全国の都道府県において、本専攻出身の多数の教員が教壇に立ち、成果を社会全般に還元しています。日本における教育環境の変化、教員に求められる役割の変遷に応じて、求められた責務を果たすことのできる優秀な教員の養成に取り組んでいます。

本専攻では、現代社会における国語教育の重要性を鑑み、また、現代文・古文・漢文と広範な教材に対応できるように、各分野・各時代の高度な専門知識を習得できるカリキュラムを組み、高度なレベルですべての分野・領域に対応できる教員の育成を目指しています。国語の基礎となる日本語の言語としての機能については、国語学の演習や特論を設けることによって対応しています。

学業レベルの向上のみならず、人（自分）が生きるということはどういうことなのか、について文学を通じて常に問いかけ、学生自身で問題点を見出だし、考察する訓練を通じて、すべての生活の基礎となる国語力を伸展させることで、教員となったときの、さまざまな現場での問題、就中、生徒との対話という問題に主導的に対処できる教員として送り出すことを目標に掲げています。

本教員養成課程を終えて教壇に立った1年目から教師としての諸能力を高度に発揮できるとともに、多様な教育問題に直面している教育現場において、「学び続ける教師」として積極的に教育問題に対応できるよう、本学教育学専攻教員と密に連携し、専修免許状取得に要求される十分な教員育成環境を備えています。

(2) 文学研究科英文学専攻（中専免（英語）・高専免（英語））

英文学専攻は、本学の教員養成の理念を基礎にして、高い英語力及び言語としての英語や英語圏の文化・文学などに関する豊富で深い知識を身に付けた中学校・高等学校の英語教員を養成することを目指しています。その成果として、これまで関西だけでなく全国に向けて多数の教員を送り出してきましたが、現在も英語教育を専門とする専任スタッフを中心に、時代の要請に応えられる、高いレベルの英語教員養成に努めています。

本専攻は、高い英語力と言語・文化・文学などに関する、豊富で高度な知識を身に付けられるカリキュラムの提供に努めています。さらに、英語による実践的コミュニケーション能力をより高いレベルにまで伸ばす機会を設けています。また、英語教育関連の科目に関しては、教職科目である「英語教育演習」「英語教育特論」は専任教員と指導主事経験者の非常勤講師が協力し合う体制を築くことで、英語教育の理論と授業実践の融合を図ってきました。

今後も、本教員養成課程を終えて教壇に立った初年度から英語教員としての高い力を発揮し、教育現場で主導的立場にたち、生涯にわたって主体的に学習を継続していく態度を身に付けさせる指導体制を整えていく予定です。

(3) 文学研究科史学専攻（中専免（社会）・高専免（地理歴史））

史学専攻では、本学の教員養成理念を基礎にして、中学校専修免許状（社会）・高等学校専修免許状（地理歴史）教員の養成においても長い歴史を持ち、京都を中心とする近畿圏のみならず、全国に教員を送り出し、その成果を社会全般に還元しています。日本における教員養成の変遷に応じて、それぞれの時代に求められる優れた教員の養成のための改革にも、積極的に取り組んでいます。

本専攻では、現代社会の中学・高等学校の一貫教育が求められる状況から、教職志望の学生に対して中学校専修（社会）・高等学校専修（地理歴史）の両方を取得し、都道府県によっては学芸員資格が求められるため、これをもあわせて取得するよう勧めるなど、より幅広く、より高い専門知識を有する教員としての基礎資質の育成を目指しています。歴史学・地理学・民俗学・考古学・政治学・経済学・宗教学・倫理学など、社会科教育・地理歴史教育に必要な多角的視野からの基礎知識とともに、史学専攻カリキュラムにおける歴史学研究の高度専門的知識・研究技術の修得により裏付けられた、たんに社会科や歴史地理の知識を伝達するだけでなく、それらを学ぶ意義を伝えることができる、社会科・歴史地理の教育者としての、高い水準の基本的資質を育成することを目指しています。

また、多様な教育問題に直面している教育現場において、本教員養成課程を終えて教壇に立った1年目から、「学び続ける教師」として積極的に、また主導的に教育問題に対応できるよう、本学教育学専攻教員との連携により、専修免許状取得に要求される十分な教員育成環境を備えています。

(4) 発達教育学研究科教育学専攻（幼専免・小専免）

◇幼専免

教育学専攻では、本学の教員養成の理念を基礎に、小学校教諭とともに幼稚園教諭の養成においても長い歴史を持ち、京都を中心とする近畿圏のみならず、全国に多数の教員を送り出し、その成果を社会全般に還元しています。日本における教員養成の変遷に応じて、それぞれの時代に求められる優れた教員の養成のための改革にも、積極的に取り組んでいます。

本専攻では、現代社会の状況から幼小一貫教育の必要性を踏まえ、大部分の学生が幼稚園専修免許状とともに小学校専修免許状をも取得し、幼稚園教育と小学校教育の連携に関わる「小1プロブレム」等の問題にも対応できるための教員としての高度な資質の涵養を目指しています。多様な教育問題に直面している教育現場において、積極的に主導的に教育問題に対応できる専門性を確立するために専修免許状取得に必要とされる最低レベルのカリキュラムに加えて、教育学専攻独自の科目群を配置し、多様な教育状況に対する高い対応能力を、理論的側面と実践的側面から育成しています。さらに、近隣教育委員会と連携することによって、学生が教育現場体験を豊富に受容できる方策をとっています。

本教員養成課程を終えて教壇に立った1年目から教師としての諸能力を高度に発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師（「学び続ける教師」）となり、教育現場を主導する教師を育成することこそが、教育学専攻の教育理念であり、目標でもあります。

◇小専免

教育学専攻では、本学の教員養成の理念を基礎にして、小学校教諭養成において長い歴史を持ち、京都を中心とする近畿圏のみならず、全国に多数の教員を送り出し、その成果を社会全般に還元しています。日本における教員養成の変遷に応じて、それぞれの時代に求められる優れた教員養成のための改革にも、積極的に取り組んでいます。

本専攻では、小学校教育における様々の問題に取り組み解決できる高次の能力を身に付けるために、大部分の学生が小学校専修免許状に加えて、幼稚園専修免許状を取得しています。幼稚園教育と小学校教育の連携にかかわる「小1プロブレム」などの新たな教育状況にも対応できる、これからの教員にとって必要な能力の育成に取り組んでいます。そのために、専修免許状取得に必要とされる最低レベルのカリキュラムに加えて、教育学専攻独自の科目群を配置しています。また、自らの主体性に基づいた固有の専門性のレベルアップを目指せるゼミ演習指導を充実させています。さらに、近隣教育委員会との連携によって

教育現場体験を豊富に受容できる方策をとっています。

本教員養成課程を終えて教壇に立った初年度から教師としての高い諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続け(「学び続ける教師」)、教育現場を主導する教師の育成こそが、教育学専攻の教育理念であり、目標でもあります。

(5) 発達教育学研究科表現文化専攻音楽コース（中専免（音楽）・高専免（音楽））

表現文化専攻音楽コースでは、本学の教員養成の理念のもとに、生徒たちの音楽的経験を豊かにすることができる中学校・高等学校音楽科教員の養成を目的として、教職課程を設置しています。

本コースでは、学生自らが主体的に音楽を愛し、深く理解し、質の高い音楽的経験を日々積み重ねていくことが大切と考えています。そのためには、ピアノや声楽などの実技はもちろん、音楽の理論や歴史に関する幅広い基礎知識を十分身につけ、この世界や人間に対するいきいきとした関心によって豊かなイメージを生み出し、音楽の表現力や理解力をさらに高めることが必要です。その目標に沿って、本コースではカリキュラムを編成しています。また、音楽を教えるには、言葉で表現しなければならず、また教える相手のことや学校教育をよく理解しなければなりません。本コースは発達教育学研究科の中に置かれているため、現代の教育学のさまざまな知見を得ることができ、それによって現代の困難な教育現場で柔軟に対応していく高次の力が培われます。

音楽を中核としながら、このように幅広く深く学ぶことによって、自らの能力を伸ばし続けるとともに、音楽を通じて世界や人間に対する理解を深めることを目指します。そして音楽によって世界や人間に対する関心を広げるような教育を行う教員を養成します。

本教員養成課程を終えて教壇に立った1年目から教師としての諸能力を高度に発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続け(「学び続ける教師」)、教育現場を主導する教師の育成を、音楽コースは教育理念・目標として掲げています。

(6-1) 発達教育学研究科表現文化専攻初等教育コース（幼専免）

表現文化専攻初等教育コースでは、本学の教員養成の理念を基礎に、幼児の感性や表現力を豊かに育成することのできる幼稚園教諭の養成を目的として教職課程を設置しています。特に幼稚園教育における表現領域において優れた指導力を発揮できる人材を育てるために、実践的な科目を多く配しています。

初等教育コース（幼専免）では、現代社会の状況から幼小一貫教育の必要性を踏まえ、大部分の学生が幼稚園専修免許状とともに小学校専修免許状をも取得し、「小1プロブレム」等の問題にも対応できるための教員としての高度な資質の育成を目指しています。多様な教育問題に直面している教育現場において、「学び続ける教師」として積極的に、主導的に教育問題に対応できる専門性を確立するために専修免許状取得に必要とされる最低レベルのカリキュラムに加えて、表現文化専攻独自の科目群を配置し、言語、音楽、造形、身体運動など表現の領域にかかわる実践的諸能力を養います。さらに、近隣教育委員会と連携することによって、学生が教育現場体験を豊富に受容する方策を行っています。

本教員養成課程を終えて幼児の前に立つ1年目から教員としての諸能力を高度に発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師(「学び続ける教師」)となり、教育現場を主導する教師を育成することこそが、初等教育コースの教育理念であり、目標でもあります。

(6-2) 発達教育学研究科表現文化専攻初等教育コース（小専免）

表現文化専攻初等教育コースでは、本学の教員養成の理念を基礎に、児童の豊かな表現力を育成するこ

とのできる小学校教諭の養成を目的として教職課程を設置しています。京都を中心とする近畿圏のみならず、全国に高い資質を備えた教員を送り出し、その成果を社会全般に還元しています。日本における教員養成の変遷に応じて、それぞれの時代に求められる優れた教員の養成のための改革にも、積極果敢に取り組んでいます。

初等教育コース（小専免）では、現代社会の状況から幼小一貫教育の必要性を踏まえ、大部分の学生が小学校専修免許状とともに幼稚園専修免許状をも取得し、「小1プロブレム」等の問題にも対応できるための教員としての高度な資質の育成を目指しています。多様な教育問題に直面している教育現場において、「学び続ける教師」として積極的に、主導的に教育問題に対応できる専門性を確立するために専修免許状取得に必要とされる最低レベルのカリキュラムに加えて、表現文化専攻独自の科目群を配置して、「思考」し「判断」し、そしてそれを他者にわかりやすく伝え、調整することのできる「表現」力を養うことによって、多様な教育状況に対応する能力を理論的側面と実践的側面から充実させています。さらに、近隣教育委員会と連携することによって、学生が教育現場体験を豊富に受容する方策を行っています。

本教員養成課程を終えて教壇に立った1年目から教員としての諸能力を高度に発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師（「学び続ける教師」）となり、教育現場を主導する教師を育成することこそが、初等教育コースの教育理念であり、目標でもあります。

(7) 発達教育学研究科児童学専攻（幼専免）

本専攻の基礎となる発達教育学部児童学科では、昭和5年（1930）開設の本派本願寺保姆養成所（昭和19年京都保姆養成所に改称）以来、本学の教員養成の理念に基づき、長きにわたり幼稚園教諭の養成に取り組んできました。その結果、地元である京都および近畿圏のみならず、全国に多数の教員を送り出して今日に至っています。また各地の幼児教育の現場で指導者的役割を担う者も数多くいます。さらに、平成12年度には厚生労働省より保育士養成課程の認可を受け、幼保連携を推進し、就学前の子どもたちの保育・教育を担う人材の育成に取り組んでいます。

児童学専攻では、今後の幼保連携型認定こども園への移行の動きなどを踏まえて、ほとんどの学生が幼稚園専修免許状とともに保育士資格をも取得し、就学前の子どもたちの教育・保育の多様な問題に対応できる保育者の育成を目指すばかりでなく、発達教育学研究科で学ぶことの特色を発揮して、発達・保健・文化・表現の多様な科目群を配置することにより、理論と実践の両側面から高度の充実を図っています。また、近隣の幼稚園・保育所あるいは児童館などとの連携により、現場体験も豊富にできるよう充実した体制を取っています。

本教員養成課程を終えて幼児教育の現場に出た1年目から、幼稚園教諭としての諸能力を高度に発揮できるとともに、多様な問題に直面している幼児教育および子育ての現場において、「学び続ける幼児教育者」として積極的に対応し、主導的役割を担い得る幼稚園教諭の養成を目指します。

(8) 家政学研究科食物栄養学専攻（中専免（家庭）・高専免（家庭））

食物栄養学専攻では、本学の教員養成理念のもとに、社会の幅広い分野で活躍できる食と健康の高いレベルの専門家を養成しています。

本専攻では、中学校専修免許状（家庭）、高等学校専修免許状（家庭）の教員養成において、長い歴史を持ち、卒業生は近畿圏のみならず全国において、家庭科教諭や学校栄養士、教育委員会等で活躍してきました。

現在わが国で食物栄養学を学ぶほとんどの大学が管理栄養士課程ですが、その中で、家庭科の教免を取得できる大学は一部の大学に限られていることから、多くの学生が、学部に入學した時点から栄養教諭や中学

校・高等学校の家庭科教諭をめざし、栄養教諭一種免許状、中学校一種免許状（家庭）、高等学校一種免許状（家庭）を取得しており、このような学生が本専攻でさらに専修免許状の取得を目指しています。

本専攻の学びの特徴は、「食・栄養・健康」の専門的な知識を深め、食や食育の専門性を生かして、家庭科の総合力を育成する教育を実践しているところにあります。特に「食育」や家庭教育の重要性など、近時の強い社会的要請を受け、本学附属小学校や公立小学校での食育や家庭との連携等について実践を通じて深く学ぶことにより、家庭科教育の必要性を理解し、より資質の高い教諭の育成を目指しています。

このように食や健康についての深い素養を生かし、教育現場体験を積極的に取り入れ、実践力・コミュニケーションスキルの育成にも務めています。本教員養成課程を終えて教壇に立った1年目から家庭科教員としての高い諸能力を発揮でき、学び続け、教育現場を主導できる教師を育成していくことが、本専攻の教育理念であり、目標です。

(9) 家政学研究科生活造形学専攻（中専免（家庭）・高専免（家庭））

生活造形学専攻では、本学の教員養成の理念に基づき、創設以来、中学校専修免許状（家庭）、高等学校専修免許状（家庭）の教員養成を長年にわたり行ってきおり、卒業生は関西をはじめ、全国で家庭科教員として活躍しています。

本専攻における学びの特徴は、「造形意匠学・アパレル造形学・空間造形学」の3つの観点から、生活環境・生活空間デザインおよび快適な生活環境を創造するための高度な専門的知識を修得することにより、衣生活領域、住生活領域、衣生活・住生活と文化、持続可能なライフスタイル、ホームプロジェクト活動などに必要な広く深い知識の修得、実験・実習を通じた技術、生活を科学する能力を実践的・体験的に修得することにあります。

生活技術の革新により、生活環境や家庭を取り巻く社会の変化は著しく、快適な生活環境を創造する、さらに高い能力がますます求められています。家庭や地域の生活課題に主体的に取り組み生活の充実と向上を図る、高次の知識と技術を修得し、中学校・高等学校の家庭科教員にむけての学びを通して主体的に他者との相互理解につとめ、柔軟な姿勢で予期せぬ変化に対処しうる人材の育成、教員としての高い倫理観・責任感を持った人材の育成を目指しています。

本教員養成課程を終えて教壇に立った1年目から教師としての高い諸能力を発揮できるとともに、その後も学び続ける教師であり続け、教育現場を主導できることを、教員養成の目標としています。

(10) 家政学研究科生活福祉学専攻（高専免（福祉））

生活福祉学専攻は、わが国において少子高齢化が加速するなかで、豊かで安定した社会と生活の維持向上を理念として設立されました。本専攻では、本学の教員養成の理念を基礎にして、高齢者・障害者の介護・福祉について、これに貢献する人材を養成するとともに、介護問題を制度的視点よりも、家族・家庭のなかを中心に据えるべきとする「生活者」視点での教育研究理念をかかげて、教員養成をおこなっています。

少子高齢化を背景に、医療・保健・福祉の連携が図られており、各分野と協働しながら問題解決に挑む姿勢が求められています。また、グローバル社会に対応できる国際的な視点も必要になっています。貧困や格差社会、高齢者介護、児童虐待や障害者支援等、世界共通の社会問題に対して、どのように解決法を見出し、いくかが問われています。このような現代社会の諸問題に対応するために、福祉における制度・政策、法律、経済をはじめ、地域社会や家庭環境、対人援助システムやコミュニケーション能力等、多様で高次の知識と技術を身につけることを教育目標としています。

本専攻では、高い倫理性を持ち、生徒から深く信頼され、生徒の悩みや家族への支援を行う幅広い知識と

高い技術を備えた福祉科教員の養成をめざしています。本教員養成課程を終えて教壇に立った1年目から教師としての高い諸能力を発揮できるとともに、その後も学び続ける教師であり続け、教育現場を主導できることを教員養成の目標としています。

(11) 現代社会研究科公共圏創成専攻（中専免（社会）・高専免（公民））

現代社会研究科公共圏創成専攻では、本学の教員養成の理念を基礎に、現代社会におけるさまざまな問題を多角的に深く認識したうえで、その解決のため他者と創造的に協働することの重要性と方法を生徒たちに伝えることができ、自身も生涯その知識と能力を伸ばす努力を行う、高い倫理観と強い責任感を持った教員の養成を目指しています。

本専攻では、このような教員養成ができる科目群を教職課程として配置し、とりわけ、教科に関する科目である、「法律学、政治学」、「社会学、経済学」、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」については充実したプログラムを提供しており、まさに社会科・公民科専修免許状教員養成に相応しい科目構成となっています。これらの科目に加えて、現代社会に関する幅広い分野の科目を開設し、複眼的視野から発想する力やそれを実現する高いスキルを身に付けた優れた人材育成を目指しています。

本教員養成課程を終えて教壇に立った初年度から教師としての諸能力を高度に発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師（「学び続ける教師」）となり、教育現場を主導する教師を育成することが、公共圏創成専攻の教育理念であり、目標でもあります。